

ミニ・ラグビーのルール

(平成 19 年 5 月 14 日現在)

(改訂 平成 20 年 11 月 16 日)

(改定 平成 23 年 12 月 7 日)

(改定 平成 24 年 9 月 19 日)

(改定 平成 25 年 7 月 18 日)

麻生ラグビースクール

(文責 佐藤 満弘)

はじめに

ミニ・ラグビーはイングランドで開発され、大人のチームが展開ラグビーのトレーニングの ために行われたのです。当初はFW4人（前列に2人、後列に2人）、BK5人（ハーフ、スタンドオフ、センター、ウィング、フルバック）という構成でした。

ジュニア（中学生）もミニ（小学生以下）も同じだったのです。

麻生RSが協会に加盟した当時は、小学生は12人制、中学は15人制でした。

その後、ミニラグビーの導入により現在の9人制に変わり、FW4人（プッターを含む）、BK5人という構成に変わりました。

プッターを置くことでダイレクト・フッキングを行ない、BKへの展開を早くしようというものでした。

平成18年度から改正が行われ、プッターという存在はなくなりましたが、本来のミニ・ラグビーの精神が失われたことは残念なことです。

以下に述べるミニのルールは神奈川県ルールです。他の県は独自のルールを持っています。

神奈川県のルールは日本協会が定めているルールと殆ど同じです。

子供たちのためにも共通ルールにしたいものですね。

高学年（5・6年生）、中学年（3・4年生）、低学年（2年生以下）とルールが異なります。

各学年の切り替えのときは間違えないよう子供たちに教えてください。

レフリングについても少々書き加えました。

ルールブックに準じた順序で説明します。

説明を省いた部分はレギュラーのルールと同じです。対比しながら読んでください。

絵は描いていませんが、神奈川県ミニ・ラグビー競技規則、その他の資料を参考にしてください。

- 参考文献
- 2006年度／神奈川県ミニ・ラグビー競技規則
 - 平成18年度競技規則／日本ラグビーフットボール協会
 - 1988年度／ミニラグビーで楽しもう／日本ラグビーフットボール協会
 - 2008年度／神奈川県ミニ・ラグビー競技規則
 - 2010年度／神奈川県ミニ・ラグビー競技規則

I. 試合前

1. グラウンド

中学年・高学年はグラウンドの約半分を使用します。

レギュラーグラウンドのゴールラインと10メートルラインをタッチラインとし5メートルラインがゴールライン、タッチラインがデッドラインとなります。

3メートルラインは通常、引かれていませんので、レフリーは必ず歩測します。

ラインオブタッチは、3メートルラインからゴールラインに平行に5メートルまであるものとします。

低学年以下はこの約半分です。

- * ゴールラインはゴールです。
- * タッチラインはタッチです。コーナーフラッグはタッチです。

2. ボール

高学年・中学年は4号ボールを使用します。

低学年は3号ボールです。

3. プレーヤーの人数

高学年は9人です。

プロップ・フッカー・プロップ・ハーフ・スタンドオフ・センター・ウイング・ウイング・フルバック

中学年は7人です。

プロップ・フッカー・プロップ・ハーフ・スタンドオフ・センター・ウイング

低学年以下は5人です。

フッカー・ハーフ・スタンドオフ・センター・ウイング

- * 交代は自由です。
- * 原則として1度出場したプレーヤーは戻れませんが、負傷等でメンバーが足りなくなったときは再出場できます。退場者の交代は出来ません。
- * 負傷交代も許されます。手当が終われば再出場は出来ます。

4. プレーヤーの服装

スパイクのスタッドはプラスチック製で固定式のものでなければなりません。

その他のことはレギュラールールと同じです。

5. 試合時間

高学年は、15分－3分－15分

中学年は、12分－3分－12分

低学年は、7分－1分－7分－1分－7分 ある程度自由

6. マッチオフィシャル

レフリーは試合時間の15分前、または、前の試合のハーフタイムに双方のキャプテン及びタッチジャッジを呼んでトスを行わせる。

- * 握手など礼儀を正しくする。
- * 競技委員及びCS委員の注意事項を確認する。
- * タッチジャッジとの打ち合わせをする。時計を合わせておく。
- *グラウンドの確認を
- * スパイクスタッドも子供と同じものを。
- * レフリーの笛はイングランド製、アクメ（ACME）を使用。協会推奨。

タッチジャッジはラインアウトのとき、ポイントを示したら、自陣側の5メートルラインを手で示し、オフサイドを防止する。声を出してよい。大声で。

II. 試合中

1. キックオフ

高学年は中央よりドロップキックにより開始する。

中学年は中央よりドロップキックにより開始する。蹴れない場合はパントキックでもよい。

相手側はキックの行われる地点からゴールラインに平行に5メートル下がります。

蹴ったボールが5メートルに達しなければ、中央で相手側ボールによるスクラムかやり直しとなります。選択権は相手側にあります。

低学年は中央でタップキックからのパスで開始します。

相手側は5メートル下がります。

- * タップキックとは手の中にあるボールではなく、地上に置いたボールをチョン蹴りすることです。
- ペナルティのときも同じです。

蹴ったボールが直接、相手側インゴールに入り、タッチダウンされたときは中央で相手側ボールによるスクラムとなります。

デッドラインを越えたときも同様です。

2. トライ後のキックオフ

高学年・中学年では得点された側のチームがキックオフを行いません。

従来と変更されました。

キックオフの方法は試合開始のキックオフと同じです。

低学年では得点された側のチームがキックオフを行いません。

中・高学年とは逆なので注意してください。

3. ドロップアウト

高学年はゴールラインから10メートルの地点か後方よりドロップキックで行ないます。
中学年は上記の地点でプレースキックかドロップキックで行ないます。
低学年は5メートルの地点でタップキックからパスで行ないます。

4. キック

高学年・中学年はフィールド内のどの位置からのキックもOKです。
ドリブルも許されます。

自陣10メートル以内から蹴ったボールがタッチラインに出たらタッチです。

10メートルを越えた地点から蹴ったボールが直接タッチに出ればダイレクトタッチとなり、蹴った地点に戻って相手ボールのスクラムとなります。

フライキックは禁止されています。相手ボールのペナルティ。

密集状態のなかで無目的に蹴ったボールなどが対象となります。

低学年では、キックオフのときのタップキック以外は全て禁止です。

5. アドバンテージ

ボール、またはボールを持ったプレーヤーが、レフリーに触れたとき、危険なプレーが行われたときはアドバンテージは適用されません。

アドバンテージを見ているとき、さらに重度な反則が発生しても、最初の反則を取ります。

6. 得点方法

トライは5点、ペナルティトライは5点。

トライ後のゴール（コンバージョンゴール）は2点。

ペナルティゴール、ドロップゴールはありません。

7. ゴールキック

高学年は好きな位置からキックをして構いません。

中学年はゴールポスト正面からキックします。

いずれも、プレースキック、ドロップキック両方とも認められます。

低学年はゴールキックはありません。

* トライ後のゴールキックが行われるとき、キッカーがスタートを切ればチャージに出ても構いません。

* チャージに出るとき、大声を出せばやり直しとなります。

子供には多いことなので注意しましょう。

このときゴールに成功していれば、ゴールは認められます。

* キッカーは準備が整ったあと、1分以内に蹴らなければなりません。

時間をかければ、キックは中止されます。

8. 不正なプレー**全てペナルティキックが相手に与えられます。**

子供たちに多いプレーとして

ジャージを掴んで振り回す、

同学年でも身長差があるのでハイタックルになることが多い

タッチに突き出す

ボールキャリアーにチャージする、体を当てる

肘を突き出し、タックルを防ぐ

ボールを叩き落とそうとする、スティファームタックルにつながる

ボールキャリアーが腕を振って相手を近づけまいとする

などが多いのです。注意しましょう。

キャバルリーチャージは本来、ペナルティを与えられたとき、突進してくるプレーヤーにタックルキックをしてすぐに手渡しすることをいいますが、ミニではスクラムで相手側が3メートル下がっていることを狙って、ハーフがスタンドオフなどが突進してパスを渡す行為をいいます。危険なプレーとされています。

9. ペナルティキック／フリーキック

ペナルティキックはボールをチョン蹴りすることです。

相手側は5メートル下がらなければなりません。

キッカーがボールに足を当てた時点で再開、イーブンボールとなります。

早いリスタート、クイックプレーも認められています。

自陣5メートル地点でペナルティが与えられたときは、早いリスタートをしてはいけません。相手側に5メートル下がる余裕をつくってやるのです。

ラインアウト周りでよく発生するフリーキックはペナルティキックと同様です。

10. 3メートルルール／5メートルルール

<3メートル>

スクラムでのBKのオフサイドラインはスクラムの後方の足から3メートル下がる。

改訂 攻撃側も3メートル下がらなければなりません。

<5メートル>

キックオフはセンターラインから5メートル下がる。

ラインアウトのBKのオフサイドラインはラインオブタッチから5メートル下がる。

ペナルティキックでは相手側は5メートル下がる。

ゴールラインより5メートル以内で発生した、スクラム・ラインアウト・ペナルティは全てゴールラインより5メートル離れた地点で行なう。

Ⅲ. フィールドプレー

1. タックル

ボールキャリアーが1人以上の相手に捕まり、地面に倒された場合、タックルが成立します。捕まえていなければタックルは成立しません。

よくタックルされたが、捕まえていないのでそのまま立ち上がってプレーをするというのが見受けられますが、これはタックルが成立していません。

タックルしたプレーヤーは自身も地面に倒れていなければタックラーと呼ばれません。

タックルが成立したとき、タックラーは直ちに相手を離さなければなりません。

ノットロールアウト ペナルティ

ボールキャリアーは直ちにボールを放さなければなりません。

ボールを地面に置く、パスをする、など

ノットリリースザボール ペナルティ

ボールが置かれた状態にかぶさるような形で倒れ込んではいけません。

オーバーザトップ ペナルティ

タックルが成立するとタックルドゲートが形成されます。ゲートはタックルされたプレーヤーの倒れ方で幅が異なります。ポイントに参加しようとするプレーヤーはタックルドゲートから入らなければなりません。

オフサイド ペナルティ

以上のような順序でタックル周辺での反則が発生するのです。

子供たちに多いのは、前にいたとき戻らないでボールを拾いにいく、横から入るケースが見受けられます。

タックラー、ボールキャリアーともに立ち上がったからでなければプレーに参加することはできません。膝をつきながらボールに触るなども多く見られます。

倒れているプレーヤーにもたれている、手をついているなどは地面に倒れているものとみなし、自身も倒れているプレーヤーとなります。

2. ラック

タックルポイントでよく発生します。

地上にあるボールを双方1人以上で奪い合いをするのがラックです。

ラックの中ではボールを手で扱ってははいけません。

子供たちはよくやります。

ラックのオフサイドラインは組み合っている双方のプレーヤーの後ろ足の線です。

ラックの横にいるプレーヤーはオフサイドです。フローターといえます。

この位置から相手に働きかけてはいけません。オフサイドになります。

ラックからボールが出ればラックは解消です。

ラックの後方にいる味方のプレイヤーがボールを持ち上げた時点でラックは解消です。

ボールが1メートル以上、転がり出ればイーブンボールとなり、ラックは解消です。

ボールを含めてラックがゴールラインを越えればラックは解消です。

ラック最後尾の足下にあるボールをハーフ（ハーフ役）手を入れてのボール出しはハンドとなりません。最後尾から2番目より前にあるボールに手を入れた場合はハンド。

ラックがアンプレアブルとなってスクラムが命じられたときは、直前に攻めていたチームがボールを投入します。

3. モール

ボールを持っているプレイヤーが1人以上の相手に捕まえられ、味方の1人以上がボールキャリアーにバインドしている状態をモールといいます。

モールは3人以上で形成され、ラックは2人以上で成立するのです。

モールのオフサイドラインはラックと同じです。フローターも同じです。

ボールがモールから出るか、ボールを持ったプレイヤーがモールから離れればモールは解消です。最後方のプレイヤーがボールを持ち、ハーフ（他のプレイヤー）がボールに手をかけている状態は出たことにはなりません。

モールがアンプレアブルとなったときは、モール開始時にボールを持っていなかったチームのボールでスクラムとなります。ラックと反対です。

IV. 試合の再開

1. ラインアウト

改訂 高学年・中学年は、タッチとなった地点で、ラインオブタッチを挟んで2人が並びます。

中学年はボールをパスするまでラインアウトは解消しません。

ボールの取り合いはしません。

高学年はボールの取り合いはOKであり、割って出てもいいのです。

ハーフがボールに触ったら解消です。

ラインアウトで防御側は、タッチラインと3メートルの間にFW1人を立たせます。

ロングスローは禁止です。

クイックスローインは禁止です。

ラインアウトに参加していないプレイヤーのオフサイドラインはラインオブタッチから5メートルです。BKラインをさしています。ハーフは除きます。

ラインアウトでの反則は、スクラム、ペナルティともにタッチから8メートルの地点で行ないます。ラインアウトの解消はレギュラールールと同じです。

ノット3メートルに注意してください。ラインが引かれていない場合もあります。

ノットストレート（真っ直ぐ投げ入れない）は1回目はやり直し、2回目はスクラムとなります。

低学年はラインアウトは行ないません。

タッチとなった地点から味方にパスをすることで再開します。

相手側は3メートル、下がらなくてははいけません。

2. スクラム

高学年・中学年ともにFW3人でスクラムを組みます。

レフリーはクラウチ（構えて）、タッチ（相手の腕をつかむ）・・・セットと声をかけます。タッチとセットのあいだはチョット間をおきます。

神奈川ルールではクラウチ、タッチ、ホールド・・・セットです。

まもなくホールドは取れると思います。セットは組めという命令ではありません。

自分の体を自分で支えるようにし、肩が腰より低くならないようにします。

押しでははいけません。

オーバーバインドです。フッカーは両プロップの腕の上からバインドします。

プロップは、タッチで対する相手の腕、肩などをしっかりと掴みます。

高学年では、ハーフがスクラム内にボールを投入します。

ノットストレートはありません。

誤って相手側にボールが出てしまったときはプレーは続行します。

出たボールをハーフが取り損なって後方に転がった場合、イーブンボールとなり双方のいずれのプレーヤーもプレーすることができます。スクラム解消。

ハーフがボールに触ったとき、スクラムは解消します。

スクラム内に手を突っ込んでかまいません。ハンドとならない。

高学年はハーフのもぐり（ボールを持って走る）はOKです。

中学年ではボールの投入は行われません。

フッカーのかかとの後ろにボールを置きます。

ハーフがパスをしたらスクラムは解消です。もぐりははいけません。

低学年では、FWは1人です。

互いに向き合って相手をしっかりと掴みます。

ボールはかかとの後ろに置きます。

ハーフがパスをしたらスクラムは解消です。もぐりははいけません。

スクラムのオフサイドラインは、組み合ったFWの後方の足から3メートルです。

BKのオフサイドラインは攻撃側・防御側ともにスクラムの後方の足から3メートルです

ハーフは後方の足から1メートルです。

スクラムに手をつけていることで1メートルとみなします。

V. 試合後

試合後にアフターマッチファンクションを行います。

お話をします。

両チームのキャプテンも思い思いについて語ります。

最後に両チームのコーチの代表が感謝の意を述べて終了です。

追記 タッチジャッジの役割

- 1 セットプレー（スクラム・ラインアウト）のとき、自チームのオフサイドを見ます。
- 2 ハーフタイムの時、自陣に帰らず、グラウンド中央にて開始を待ちます。

あとがき

この資料はルールの改正が行われれば直ちに改訂します。

参考意見をお寄せください。

25年7月改正分については、太字で表記しました。